

ツキノワグマの出没状況について

全国では

○令和5年度にクマ類(ツキノワグマ、ヒグマ)の出没件数が
過去最多(24,339件)

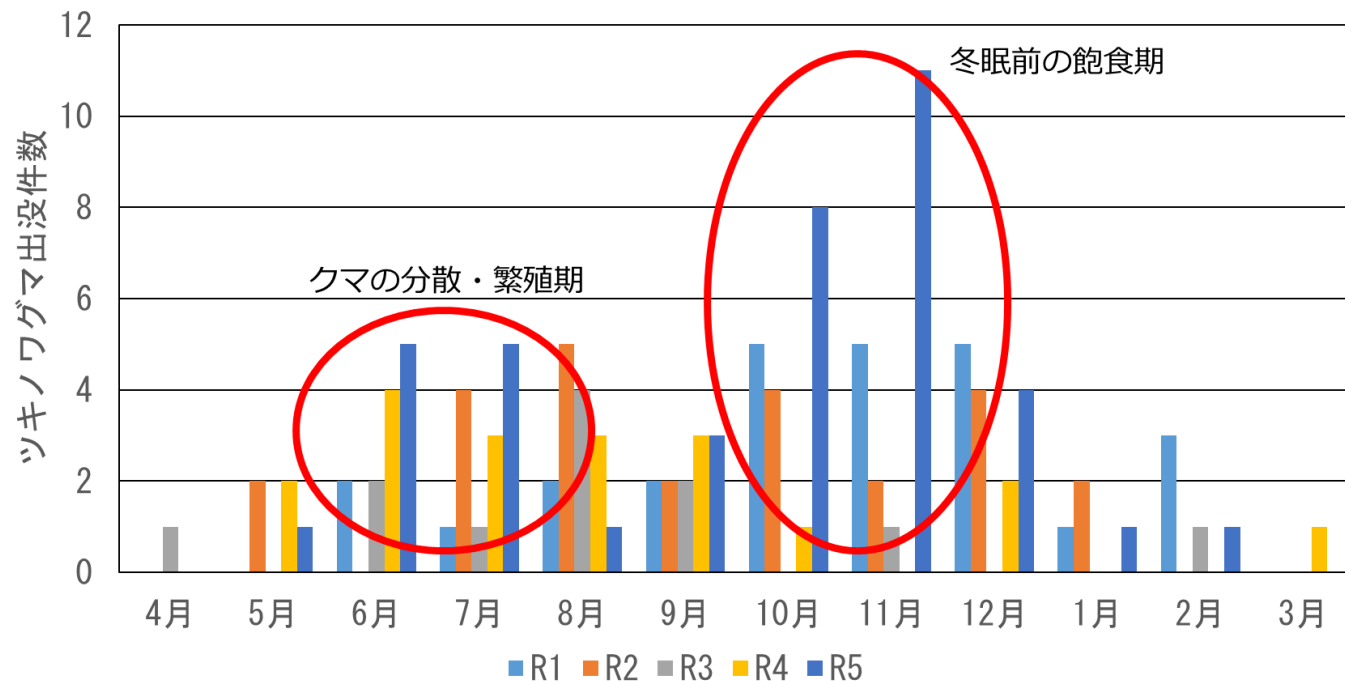
○令和6年度において既に**10件の人身被害が発生** (みどり共生推進課調べ、R6年5月27日現在)

三重県では

○令和5年度の出没件数が**40件**
(過去最多)

○令和6年度は既に**8件**の出没情報(速報値)
(昨年同時期は1件)

三重県におけるツキノワグマの月別出没件数



ツキノワグマに関する注意喚起



初夏は、クマの繁殖期や子別れの時期が重なり、クマが活発に行動することがあります。
山菜採りなど様々な場面でツキノワグマの被害に遭わないよう、次のことに注意してください。

クマと出会わないために

- 鈴やラジオなどで自分の存在を知らせる
- 見通しの悪い場所に不用意に入らない

クマに出会ってしまったら

- 背中を見せない、走って逃げない
- 目を合わせたまま、ゆっくりと後退し、その場を離れる(落ち着いて行動)

クマを集落に寄せ付けない

- クマの食べ物(生ごみ、庭先の果樹、農作物等)を家の周辺に放置しない
- 集落周辺の藪の刈り払いを行い、クマが出没しにくい環境に

ツキノワグマに関する情報提供

県ホームページ上での情報提供イメージ

三重県ホームページ

【パソコン】

追加

クマの出没に注意
WARNING
クマに関する情報はバナーをクリック

緊急情報 令和6年能登半島地震に関する支援の情報

クマに関する注意情報 県内でクマの出没情報が増えていきます。出没場所や注意事項については、こちらをご覧ください。

【スマートフォン】

追加

緊急情報 令和6年能登半島地震に関する支援の情報

クマに関する注意情報 県内でクマの出没情報が増えていきます。出没場所や注意事項については、こちらをご覧ください。

追加

クマの出没に注意
WARNING
クマに関する情報

県民の皆様へ

・ツキノワグマは初夏を迎えるこれから活動が活発に
→遭遇するリスクが増加

・山に入るときは **ツキノワグマに注意！**

・ツキノワグマに出会ってしまったら

落ち着いて行動を！！

※今後の対策について検討する「三重県鳥獣被害対策連携会議」を6月7日に開催予定

第2回みえ県民1万人アンケート調査結果

(令和5年12月～令和6年1月実施)

三重県民の 生活の満足度



前回調査から
上位3項目の
変化なし

生活に関連した14分野の満足度

満足度の高い分野

- 身のまわりの自然環境
- 健康状態
- 医療サービス



満足度の低い分野

- 移動手段、交通の便利さ
- 給料や報酬、賃金
- 家計と資産



参考：内閣府「満足度・生活の質に関する調査」

平均5.79点

※令和4年度調査

～ 災害への備え ～

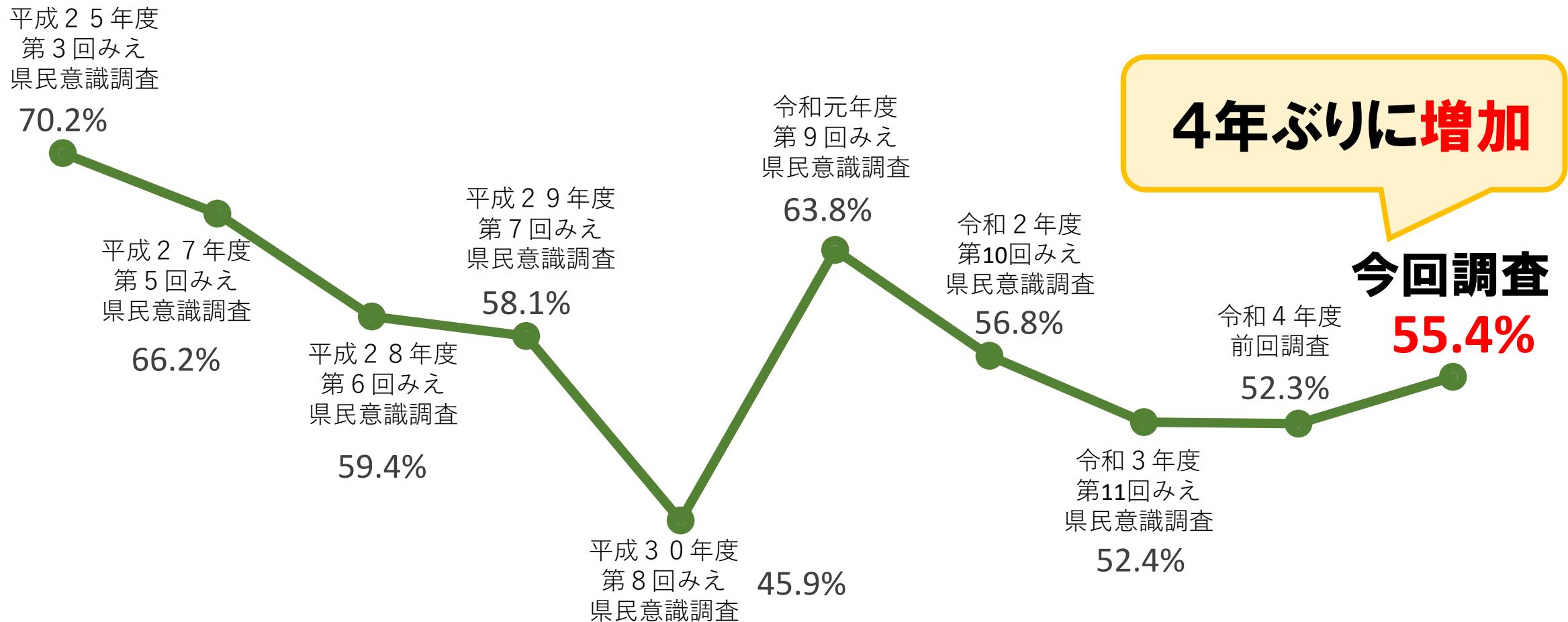
「公助」の取組として重要だと思う支援

- 1 **避難所の確保・整備** 49.2%
- 2 **被災者生活再建支援** 46.5%
- 3 **道路、橋、堤防など
インフラの整備・耐震化** 44.7%



～ 結婚に関すること ～

「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚の方の割合



～ 公共交通について ～

鉄道やバスを利用できる環境にあるかについて

鉄道

利用できる環境にあり、
実際に利用することがある

38.6%

利用できる環境にあるが、
ほぼ利用していない
41.9%

利用できる環境にない

14.3%

「不便」と感じる理由

1 駅までの距離が遠い 42.5%

2 本数が少なく不便 35.4%

3 交通費が高い 23.9%



バス

利用できる環境にあり、
実際に利用することがある

14.1%

利用できる環境にあるが、
ほぼ利用していない
60.9%

利用できる環境にない

18.8%

「不便」と感じる理由

1 本数が少なく不便 48.4%

2 時間が掛かる 28.2%

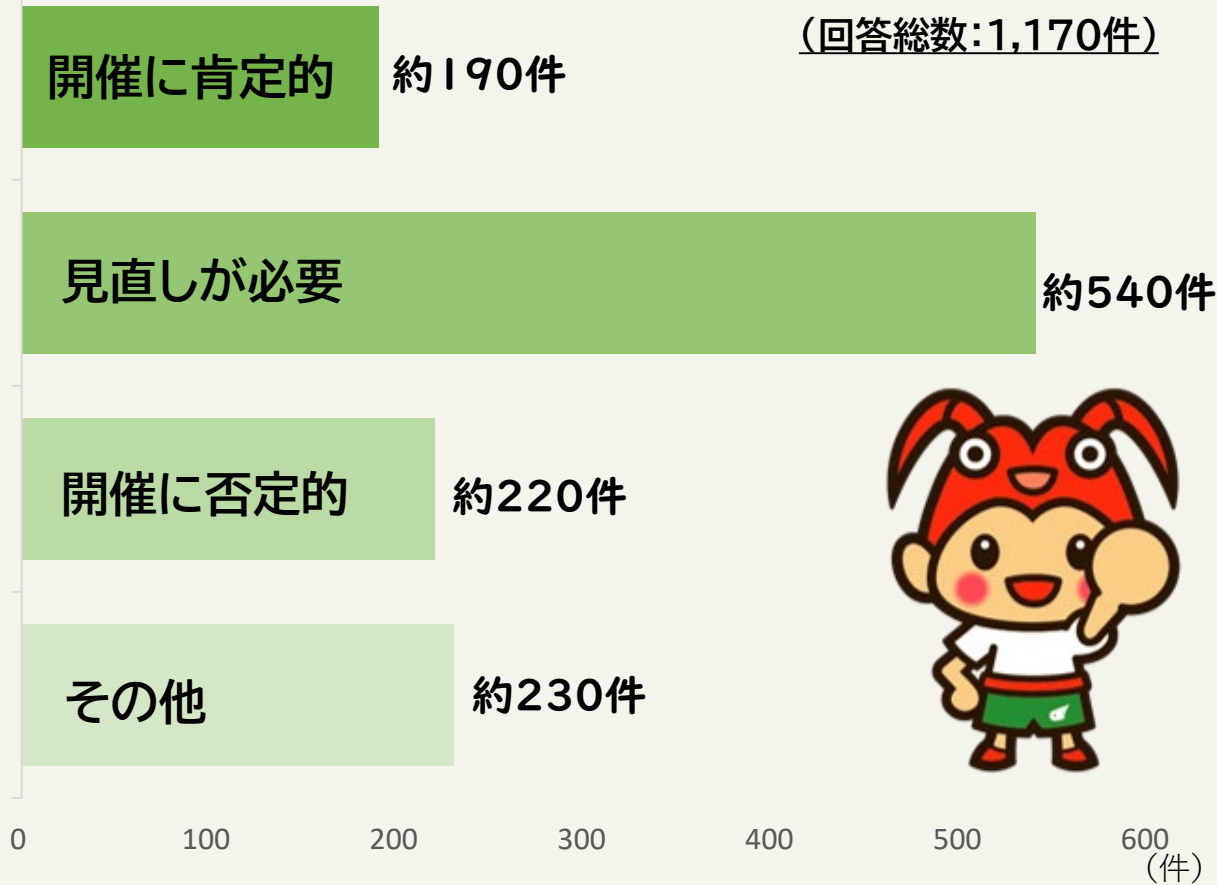
3 交通費が高い 25.2%



～ 国民スポーツ大会について ～

今後の国スポの開催について

(回答総数:1,170件)



※ 自由記述から企画課にて集計した参考値

※ 1つの回答で肯定・否定が混在している場合等はダブルカウント

※2024年から国民スポーツ大会に名称変更

-主な意見-

【開催に肯定的】

- 競技者にとって重要な大会なので、今後も大いに盛り上げて開催してほしい。
- スポーツ振興のため、三重県での開催を望む。

【見直しが必要】

- 簡素化したうえで大会を継続してほしい。
- 広域で開催するなど既存施設の有効利用を促進すべき。

【開催に否定的】

- 財政負担が大きいため、子ども施策など他の施策に使ってほしい。
- 開催する必要性を感じない。